

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)	良くなる	-	-
	やや良くなる	衣料品専門店（副店長）	・服飾関係は10月頃が商品のもっとも充実している時期になるため、今よりは良くなると思う。
		タクシー運転手	・9月、10月は、夏休みが終わり、通常の仕事のパターンに戻るため、例年、客数も増え、少し売上が増加する。
	タクシー運転手	・お遍路の客が増えてくるので、売上は上昇する。	
	競艇場（職員）	・新スタンドオープン記念レースの後半戦、8月のお盆レース、9月には当ボート場最大の周年レースを控えており、今後の売上高増加に期待したい。	
	変わらない	商店街（事務局長）	・今春オープンした商業施設の開業効果が今しばらく続くと思われる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・お盆やお彼岸などの関連商品は例年どおりを見込んでいる。お盆の前後に開店する店は少ないと思うが、閉店する店も減っているようなので、しばらくは落ち着くと思う。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・特になし。
		一般小売店〔菓子〕（総務担当）	・年末まで消費傾向は変わらないと思える。し好の分散化と、よりいっそうの費用対効果を求める傾向がある。
		百貨店（営業担当）	・来客数は変わらない。
		スーパー（店長）	・景気回復につながる好材料が見当たらない。
		スーパー（企画担当）	・猛暑になる予測もあり、飲料、冷菓の動きが良くなれば売上増につながることも考えられる。
		スーパー（財務担当）	・8月が猛暑になれば売上は順調に伸びるであろうと推測する。
		コンビニ（店長）	・残暑の厳しさ次第だが、7、8月での支出を補うために9月から節約に向かうと、売上は減少する。建築業の客が少し上向きの兆しがあり、購買力も強くなっている。景気が後退することは無いと考える。
		コンビニ（商品担当）	・消費が上向くような政策が無いため。
		コンビニ（総務）	・天候や気温にも左右されるが、先行き不透明のため変化がないと思われる。
		衣料品専門店（経営者）	・同業者からも厳しいという話があり、今後も厳しい状況が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。
		衣料品専門店（総務担当）	・衣料品のセール期間にあるが、買上点数の減少が顕著である。クリアランス効果は減少を続けており、購買意欲が高くなる傾向にはない。
		家電量販店（店長）	・オリンピック開催中であるにもかかわらず、家電のけん引商品であるテレビの動きは非常に悪い状況。今後も買換えまでの期間は、それほどテレビが売れないと考えている。
		家電量販店（営業担当）	・今後、来客数、単価の確保が難しくなってくるように思われる。
		旅行代理店（支店長）	・節電対策で外出機会が増え、旅行需要の拡大につながることを期待しているが、円高・株安など景気後退の不安材料もあるので先行き不透明である。
		通信会社（営業担当）	夏モデルの市場投入効果が一段落すると想定され、来客・販売数を押し上げる要素は見受けられない。
		通信会社（企画）	・引き続き大きな変動要因が無く、変わらないと予想する。
		ゴルフ場（従業員）	・予約状況は、全体的に昨年より悪い状況で推移している。秋のゴルフシーズンになっても、今の状況が続くと思われる。
		美容室（経営者）	・電気料金値上げや節電の呼びかけなどから節約傾向が強くて出ている。
		美容室（経営者）	・これといった変化はない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・夏物バーゲンの不調もあり、店をたたむという声も聞く。空き店舗も増えてきており、秋物スタートにはあまり期待できない。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・この不景気の中、価格に左右される商売は厳しい。
		百貨店（総務担当）	・計画停電の可能性や予想される猛暑など消費マインドがマイナスに向かう要素が多い。
		スーパー（店長）	・最近、営業時間を延長する企業が増えているが、なんとか時間延長で売上を確保しようとしているのではないかと。各企業とも、今後、景気が良くなるというような期待はしていないのではないかと。われ、やや悪くなると予想する。

		家電量販店（店員）	・販売量が増える要因が見当たらない。また、新OS発売まではパソコンの買い控えもあると思われる。
		観光型旅館（経営者）	・7月半ばから8月、9月にかけての予約状況が昨年よりかなり悪い。夏休みに旅行に行ってお金をたくさん使うという傾向にない。これは政治が不安定なことや、先行き不透明で将来を心配していることと、現実には景気が良くないことから、我々旅行業界にその消費動向が顕著に現れているのではないかと思う。
		設計事務所（職員）	・民間企業からの委託案件に関する問い合わせがほとんどなくなっており、今後、公共事業関連の発注が好転すると思われる第3四半期の後半までは厳しい状態が続くと想定される。
	悪くなる	商店街（代表者）	・当面、消費拡大など望めそうな状況にはない。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金終了が、販売量に大きく影響する。どれくらいの落ち込みになるのか想像できない。
		乗用車販売店（従業員）	・8月にはエコカー補助金終了すると予想している。それ以降は、前回の補助金制度が終了した時と同様、新車の販売は一気に落ちると思う。
		乗用車販売店（従業員）	・新車購入補助金の終了に伴い、今までの反動もあり新車の受注が大幅に減少すると予想される。
		乗用車販売店（役員）	・8月以降は補助金もなくなり、当然、売上等も悪くなると思う。ただ、ハイブリッド、新しいモデルチェンジ車の投入が下支えになると期待している。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金の終了が8月末～9月上旬になるものと思われる。補助金終了とともに自動車市場は大きく落ち込むと思う。
		住関連専門店（経営者）	・販売量が伸びない。政治がごたごたしていることや、原子力発電所問題がはっきり解決の見通しがつかないことから、ムード的に悪い感じがする。
企業動向関連	良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・再生可能エネルギーの固定価格買取制度の法律が7月1日より施行された途端、注文が殺到している。
(四国)	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・梅雨明け以降は全国的に受注が増えている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・秋需、新商品もあり、少し上昇してくると予想する。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・為替の動向は気になるものの、復興需要はしばらくは増加傾向にあるものと考え。
		輸送業（支店長）	・公共工事並びにスポット業務受注が確定している。
		通信業（部長）	・電力需給等も改善傾向がみられ、不安要素も少しずつ解消すること今後はやや良くなるものと考え。
	変わらない	電気機械器具製造業（経理担当）	・米ドル、ユーロともに為替の円高傾向は継続すると予想している。ただ、ここ数か月の数量、価格の変動等の取引条件に大きな変化はみられず、景気の動向も大きな変化はないと考えている。
		建設業（経営者）	・変わる要素が見当たらない。
		建設業（総務担当）	・案件ごとに受注検討会議を開いているが、適正な利潤が確保できる案件はほとんどない。
		不動産業（経営者）	・不動産業は、非常に業況が低迷している。客も先行きが見えないということで、買い控えの状況にある。
		広告代理店（経営者）	・長期消費低迷のため多くの得意先は、販促広告出稿意欲が少ないように考える。9月より新規得意先の広告受注が見込まれるものの、従来の得意先の広告費が不透明のためあまり変わらないと予想する。
		広告代理店（経営者）	・印刷物は増えるが、その分競争が激しくなるため、利益はそれほど変わらないのではないかとと思われる。
		公認会計士	・基本的に今の状況と変わらないだろうと話す社長が多い。特別に悪くなると判断する方も少ないし、良くなると判断する方も少ない。
	やや悪くなる	食料品製造業（商品統括）	・欧州の信用不安は継続しており、ユーロ崩壊の不安・負の連鎖を世界的に恐れていると強く感じている。
		鉄鋼業（総務部長）	・円高是正がなければ回復は見込めない。
		輸送業（営業）	・景気低迷により取扱物量が減少する中、荷主の運賃値下げ要請に応じて、値下げにより物量確保に動く同業他社がある。運賃値下げの情報は荷主間でもいち早く拡がる為、顧客離れの防衛に苦慮している。
		金融業（融資担当）	・明るい材料があまりなく、すべてにおいて手詰まり状態を感じる。取引先からも同様の話が出ている。
	悪くなる	-	-
雇用	良くなる	-	-

関連 (四国)	やや良くなる	新聞社 [求人広告] (担当者)	・消費増税を見越して、今まで住宅の購入を悩んでいた客が購入に踏み切った例が数件あったとのことで、こういったケースが各業界で増えるのではないかと予想される。
		職業安定所 (職員)	・月間有効求人倍率が、先月と比較して0.05ポイント上回っており、前年同月比では0.09ポイント上回っている。
		学校 [大学] (就職担当)	・今後開催予定の説明会等も多く、求人数は今後も伸びると予想される。
	変わらない	人材派遣会社 (営業担当)	・消費増税、為替の影響があるため。
		人材派遣会社 (営業)	・猛暑が続く中、屋外施設の集客率が伸び悩んでいるが、暑さが徐々に緩和していくにつれて回復が見込める。特に夏休みシーズンでどれだけ企画し、集客を見込めるかによって、雇用の確保に影響が出るだろう。
		求人情報誌製作会社 (従業員)	・現在は夏休みの学生アルバイトの求人が多い。夏休みが終わると正社員や、二学期が始まってから働こうという主婦層をターゲットにした求人が増えてくると予想される。
		職業安定所 (職員)	・正社員の求人倍率は0.3倍程度で変動がなく、企業の採用意欲も調整可能な非正規社員へと傾いている。
		民間職業紹介機関 (所長)	・賞与時期であるが、前年並みというところが多い。また、建設業界では戸建の需要もやや増えていることから、消費動向が変化する可能性もある。
	やや悪くなる	人材派遣会社 (営業担当)	・新しい事業が発生しても既存社員 (派遣) で対応する企業があり求人に不安を感じる。
		求人情報誌 (営業)	・特に正規雇用での求人数が減少傾向にあり、失業者・非正規雇用の割合が高くなることを見込まれる。
悪くなる	-	-	